

けんきゅうさん かしゃ みな
研究参加者の皆さまへ

せいしんしつかん にんちきのうしょうがい
「精神疾患における認知機能障害と

しんけいしんりがくてきしひょう せいりしひょう かんれん
神経心理学的指標・生理指標の関連について」

けんきゅう きょうりよく ねが けんこう けんじょうしゃよう
研究へのご協力をお願い - 健康なひと用（健常者用）

けんさ もくてき ほうほう
1. この検査の目的と方法

この研究は、こころの働き（認知機能）とこころの病気（精神神経疾患）との関係を調べるためのも

のです。こころの働きを調べるための検査にはいろいろなものがあります。そのいろいろな検査の結果から、

こころの病気のひとと、健康なひととの違いを調べて、こころの病気を発見することに役立てようという

のが研究の目的です。皆さんにお願いしたいのは、健康なひととしての研究への協力です。

研究に協力してもらうために脳波検査と面接・心理検査が必要です。実は皆さんの脳からは弱い電

気が出ていて、それを脳波といいます。その脳波を調べるのが脳波検査で、頭につけた電極で脳の電気の

動きを調べます。脳波はこころの働きと関係があることがわかっています。担当のひとの説明の後、脳波検

査を受けてもらいます。検査中は頭と顔に電極をつけて、イヤホンで音を聞いてもらいます。検査の時間
は45分くらいです。

けんさ きけん いや ふかい
2. 検査で考えられる危険なことと嫌なこと（不快なこと）

脳波検査では、頭と顔に電極をつけてもらいますが、これは脳の電気の動きをみるためだけのものですか

ら体への悪い影響は全くありません。しかし検査時間が長いので、検査中に疲れてくることがあります。

そのようなときは検査の担当のひとに言ってもらえればその場で検査を中止することができます。また電極

を頭や顔につけるときに糊（油脂成分のペースト）を使います。この糊は体に悪い影響があるものではありません

ませんが、髪^{かみ}についてベタベタすることがあります。なるべく検査のあと^{あとのぞく}取り除く^ふように拭きますが、少し残ってしまうかもしれません。そのときは帰ってからシャンプーで洗い流してもらうときれいに落とせるので心配はいりません。

3. 検査に^{きょうりょく}協力^{どうい}（同意）しなくても大丈夫なこと（不利益^{ふりえき}を受けないこと）

この検査は皆さんに私たちからお願いすることなので、協力してもらえるかどうかは皆さんの自由です。もし協力してもらえなくても問題は全くありません。

4. 研究への協力^{あと}を後から止めることができること（同意^{どうい}を撤回^{てっかい}できること）

いったん協力^{やくそく}することを約束^{どうい}（同意）した後でも、私たちに伝えてもらえれば、検査を中止することができます。検査が終わった後から研究の協力^{どうい}をやめる^{てっかい}（同意を撤回^{てっかい}した）場合、その日（撤回日^{てっかいび}）より後の研究にはあなたのデータを使いません。しかし、協力^{やくそく}をやめることの知らせを私たちが受けたときにデータの^{かいせき}解析^{はっぴょう}、学会^{けんきゅうろんぶん}での発表^{ていしゆつ}、研究論文^{とうこう}の提出^す（投稿）などがすでに済んでいた場合には、これを^{かいせき}変える^{しゅうせい}（修正する）のは難しいので、その日（撤回日^{もど}）より前^{かいせき}に戻^{かいせき}ってデータを消したり解析^{かいせき}を変えたり（修正^{しゅうせい}したり）はしません。

5. 皆さんのプライバシーを守り、秘密を守ることにについて

検査^{けんさ}と面接^{めんせつ}の情^{じょうほう}報^{がっかい}は学会^{はっぴょう}での発表^{ろんぶん}や論文、本を書くときなどに使わせてもらいます。結果を発表するときは誰のものかわからないように個人^{とくてい}を特定^{とくてい}できる情報を消して、皆さんの個人^{とくてい}の情報を守ります。

検査^{けんさ}と面接^{めんせつ}の情^{じょうほう}報^{がっかい}は誰のものかわからない形で数多くのデータの一部として、または個別のデータとして、

学会^{かぎ}での発表^{とやまだいがくいがくぶ}・論文^{とやまだいがくいがくぶ}の発表^{とやまだいがくいがくぶ}などの限られたときのみ使います。取らせてもらったデータは、富山大学医学部

附属病^{ふぞくびょういんしんけいせいしんか}院^{ふくしまだいがくにんげんぶんか}神経精神科^{いわき}、福島大学人間文化学類^{いわき}、岩城クリニックのデータと合わせて、それぞれの施設^{しせつ}の

担当^{ほかん}のひとが保管^{きょうと}して解析^{きょうと}します。解析^{きょうと}の一部は、京都大学大学院工学研究科生体機能工学分野^{きょうと}、

とうきょうだいがくせいさんぎじゅつけんきゅうしょ とうきょうだいがくいがくぶふぞくびょういんやくざいぶ
東京大学生産技術研究所、東京大学医学部附属病院薬剤部、Cognitive Genetics Collaborative

Research Organization（にんち認知ゲノム共同研究機構、きこう以下 COCORO）さんかに参加している施設で行います。また、デ

ータは、かくしせつ各施設がかんり厳重に管理するので、ひみつプライバシーを守ることと秘密を守ることについての心配はありません。

また しょうらい将来、取らせてもらったデータを新しい研究に使ったり、よその研究施設に渡したりするとき

には、あらた改めて東京大学医学部倫理委員会の許可（しょうにん承認）をもらってからにします。

6. ぐうぜん検査で偶然に体のおかしいところ（いじょう異常）が見つかったときのこと

脳波検査の目的は研究なので、今の皆さんの体のおかしいところ（異常）をみつけることが目的ではありません。検査した結果は体のおかしいところ（異常）をみつけることに向いているとは限りません。しかし、

検査したすべての結果は、いし医師によってひと通りチェックされる予定です。そのときに、さらに検査が必要

な体のおかしな点（いじょうしょけん異常所見：てんかん波など）が偶然に見つかったときには、けんきゅうしゃ研究者からそのことを

お知らせすることがあります。検査のために新たにびょういん病院を受診したときのお金（ひようなど費用等）は、とうほう当方からは

しはらお支払いできません。

7. せつめいしょこの説明書を変更する可能性について

せつめいしょこの説明書は今後に変更する可能性があります。変更したときには東京大学医学部附属病院精神神経科のホームページでお知らせします。（<http://npsy.umin.jp/disclosure.html>）

平成 年 月 日

とうきょうとぶんきょうくほんごう
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

とうきょうだいがくだいがくいんいがくけいけんきゅうか
東京大学大学院医学系研究科

ユースメンタルヘルズ講座 こうざ 荒木 あわき 剛 つよし

電話 03-3815-5411 ないせん 内線30541